

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

1. 建物概要					
建物名称	(仮称)イオン新潟ショッピングセンター				
建設地	西区 青山二丁目172 他64筆				
用途地域	第二種住居地域、法				
建物用途	物販店, 飲食店,				
竣工年	2013年3月 予定				
敷地面積	28,998.78 m <sup>2</sup>				
建築面積	17,481.18 m <sup>2</sup>				
延床面積	32,964.43 m <sup>2</sup>				
階数	地上2F・地下0F				
構造	S造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2013年3月27日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{47}{31} = 1.5$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	平均スコア 3.2		バリアフリー	Q2.1.1.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	平均スコア 2.9		維持管理	Q2.1.3	3.5
			更新性	Q2.3.3	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	平均スコア 2.0		耐震・免震	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	2.8
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.8		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.7		建物の熱負荷抑制	LR1.1	4.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.5
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.5		節水	LR2.1.1	4.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	平均スコア 3.0		生物環境の保全・創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	2.0
			まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮, 快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電設備を採用している。</li> <li>・節水器具やリサイクル材を積極的に採用している。</li> <li>・緑地を敷地外周部に設け、周辺のまちなみにさわやかな景観を提供している。</li> </ul>					

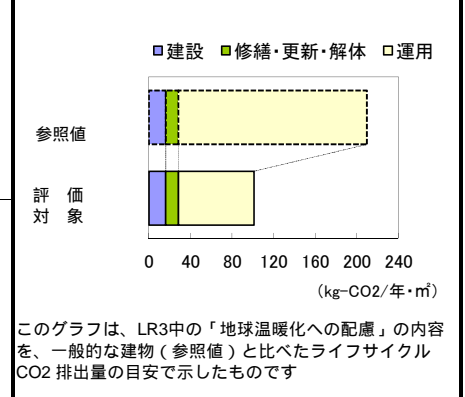
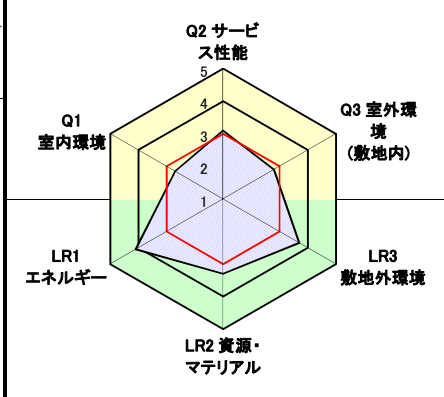
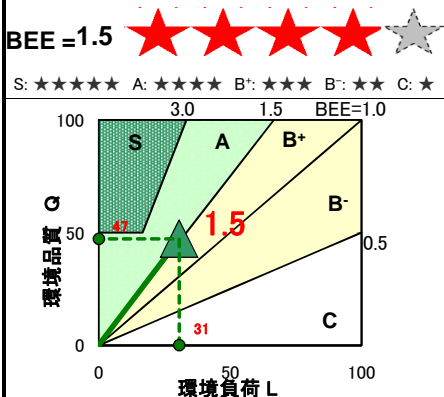
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

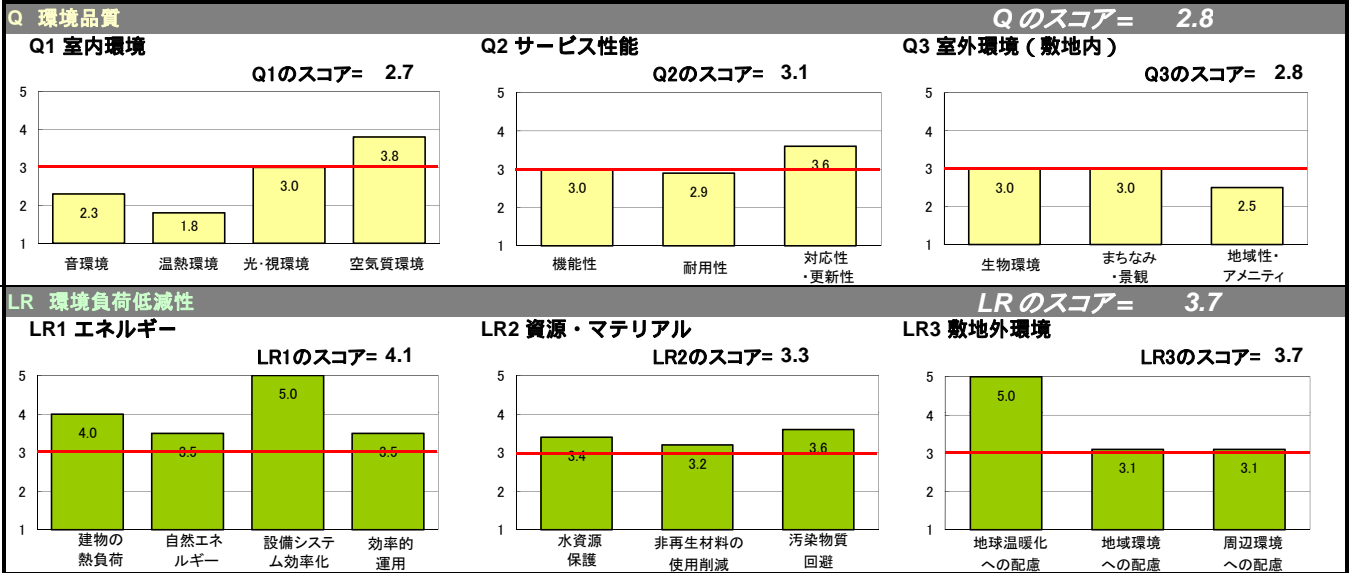
## 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.3)

**2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)** **2-2 大項目の評価(レーダーチャート)** **2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**



**2-4 中項目の評価(バーチャート)**



**2-5 設計上の配慮事項**

<b>総合</b> 本物件はショッピングセンターの新築計画である。敷地外周部に緑地を設け、「イオンふるさとの森づくり」として本来の自生種の育成に配慮している。また節水器具やリサイクル材の使用、高効率な設備機器の採用により、エネルギーの効率的な利用に配慮している。		<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> ・全面的に規制対象外及びFの内装材を採用しシックハウス対策に配慮している。 ・給気口は排気口と適切に距離をとり、新鮮な外気の取り入れに配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の長い内装材及び配管材の採用に配慮している。 ・レイアウト変更が可能なように階高を高く設けて自由度の高い設計として、更新性や変更対応に配慮している	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・「イオンふるさとの森づくり」による本来なら自生している植物の再生や、地域住民を招いた植樹祭の開催といった取り組みに配慮している。 ・室外機は風通しのよい場所に設置するなど温暖化防止
<b>LR1 エネルギー</b> ・高効率な設備機器や太陽光発電を採用している。 ・用途別、テナント別に細かくエネルギー計測が行えるよう配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・過半の便器及び水栓器具に節水機能のある機器を採用し、節水に配慮している。 ・リサイクル材及び有害物質を含まない材料の使用に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・十分な駐輪及び駐車台数の確保に配慮している。 ・建物高さを抑えて見付け面積比を小さくしたり、敷地境界線からの後退距離の確保に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される